

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森山 あづさ
非常勤医師	倉田 宝保

—概要—

肺腫瘍内科と診療科名を変更し、肺癌をはじめとする呼吸器（胸腔内）腫瘍疾患を専門に診療を続けてきた。

胸部異常陰影、肺腫瘍症例、胸腔内腫瘍に対する治療を中心に細胞障害性抗がん剤に加え、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤を導入した。慎重に効果と副作用の評価を行いながら診療を継続している。

2012年4月からは関西医大枚方病院の呼吸器腫瘍科教授・倉田宝保医師が非常勤医師として勤務し、倉田医師は不定期ではあるが木曜日午前の外来を担当している。

2010年4月からは近畿大学医学部寄付講座から水曜日を除く連日外来勤務をしていただいていたが、諸事情により3月末で終了することとなった。4月以降しばらくは月曜日と金曜日に近畿大学から応援医師の派遣がある予定。

水曜日午後のおお阪大学医学部からの非常勤医師は継続しており、肺気腫、COPD、呼吸器感染症、アレルギー疾患、間質肺炎等幅広い呼吸器内科診療を行っている。

常勤医師としての気管支鏡指導医を継続し、また近畿大学付属病院呼吸器科から指導頂き気管支鏡を施行。

呼吸器内視鏡関連施設の維持を継続していたが、医療スタッフの欠員に加え、コロナ禍での飛沫を伴う検査を控える傾向にあり、2020年年末からは生検による診断が必要な症例は他機関へ検査を依頼することも検討した。

がん治療と並行して2018年から緩和チームに参加し、麻酔科、薬剤科、栄養管理科、リハビリテーション科など多職種とのカンファレンス、および回診を施行。1999年にがん対策基本計画が策定され、2017年度の3期目の基本計画ではがん対策の方針として“予防”“医療の充実”“がんと共生”を3本の柱として掲げている。いまや国民病となったがんについて正しい知識を持って、患者に適切な医療を受ける判断をしてもらうよう努めていく。

2018年1月からは毎週月曜日、午後から緩和外来を行っている。

同年4月からはRST(respiratory support team)チームにも参加し、呼吸器科・非常勤医師、救急認定看護師、臨床工学士、理学療法士とともに毎週水曜日、午後から呼吸管理を行っている患者を中心に回診を行っている。ICU、一般

病棟での人工呼吸管理中の患者に対する、画像の読影、人工呼吸器の離脱にむけての適切な呼吸器設定や、呼吸器ケアを総合的に行う目的で検討を行っている。

—実績—

2020年5月23日緩和研修会開催中止

2020年度；

肺癌および胸部異常陰影新患者数=79人

前年度からの肺癌患者引継ぎ数=10名

緩和外来新規患者数=13名

—来年度への抱負—

ここ数年で進行期肺癌に対する化学療法は急速に進歩し、肺癌の発がん原因となるドライバー遺伝子検査EGFR、ALK、ROS1に加えてBRAF、NTRKの解析も進み個々の患者に効果の高い治療薬を投与するオーダーメイド治療が求められている。

また上記遺伝子異常に対する分子標的薬に加え、腫瘍のPD-L1タンパクの発現(TPS)を参考にしながら細胞障害性抗がん剤併用、または単剤での免疫チェックポイント阻害剤を使用するようになった。PD-L1抗体にCTLA4抗体を併用する免疫複合療法が肺癌でも承認され、今後益々免疫機序を中心とした治療は開発されてゆくことが予測される。

2020年1月下旬ころから世界中に広がったCOVID-19コロナ感染症は時間経過とともに世界から日本へも流入し、5月連休中にはピークを迎える状態にあった。

国の非常事態宣言が出され、病院内でのクラスター感染を防ぐためにも当院での緩和研修会も中止せざるを得ない状態に陥った。

健康診断、胸部2次検診受診も控えられるようになり、病院内での不急の受診は控えられ、手術は延期される傾向にある。コロナ禍の状況をみながら癌診療を行ってゆく。

<施設認定、関連施設>

日本呼吸器関連施設

日本呼吸器内視鏡関連施設(気管支鏡)